

平成20年7月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年6月30日

上場会社名 株式会社ティー・ワイ・オー 上場取引所 JASDAQ
 コード番号 4358 URL <http://group.tyo.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼 (氏名) 吉田 博昭
 グループ最高経営責任者
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼グループ執行役員 (氏名) 上窪 弘晃 TEL (03) 5434-1586

前連結会計年度は事業年度の末日の変更に伴う10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期決算は実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間の財務・業績及び同期間との比較増減は記載しておりません。

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年7月期第3四半期の連結業績 (平成19年8月1日 ~ 平成20年4月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年7月期第3四半期	21,628	—	889	—	604	—	347	—
19年7月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
19年7月期	18,912		708		585		210	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年7月期第3四半期	11	91	11	34
19年7月期第3四半期	—	—	—	—
19年7月期	6	93	6	68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年7月期第3四半期	26,664	3,101	8.0	74	36
19年7月期第3四半期	—	—	—	—	—
19年7月期	16,112	2,276	12.6	69	32

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年7月期第3四半期	0	791	1,480	3,874
19年7月期第3四半期	—	—	—	—
19年7月期	△445	△958	1,481	1,637

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金	
	第3四半期末	
19年7月期第3四半期	円	銭
20年7月期第3四半期	—	—

3. 平成20年7月期の連結業績予想(平成19年8月1日～平成20年7月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	31,900	—	1,900	—	1,550	—	700	—	24	42

(注) 1. 通期については、前連結会計年度中に事業年度の末日の変更に伴い10ヶ月の短縮決算となったため、対前年比較は行っておりません。

2. 当社は通期(連結・個別)業績予想を修正しております。詳細は平成20年6月30日付「平成20年7月期通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 3社 (社名 (株)TYOプロダクションズ、(株)円谷プロダクション、
 ナイトウィザード製作委員会) 除外 1社 (社名 —)

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

なお、1株当たり予想当期純利益は、期末発行株式数(自己株式控除後)28,661,418株により算出しております。上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提にしております。実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。連結業績予想につきましては、5ページをご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期における我が国経済は、サブプライムローン問題及び天井の見えない原油価格の高騰による物価上昇が個人消費に影響をおよぼし、景気の減速感が強まってまいりました。

このような市場環境のもと、当社グループは、当社(株式会社ティー・ワイ・オー)、連結子会社及び持分法適用会社の44社により事業を展開しております。グループ全体を「クリエイティブ・ビジネス都市」と呼ばれるしくみ(ひとつの資本のもとに多数の優秀なコンテンツ制作会社が結集し、各々の制作会社が独立したブランドとして、自由に収益を追及することによってグループ全体の業績を最大化するしくみ)によって事業拡大を行い、当社が掲げる「マルチブランド戦略」(当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ会社をグループ化する戦略)の実現をより確かなものとするべく、このしくみの実践と一層の精度向上に向けて取り組んでおります。

広告映像事業につきましては、売上高、利益ともに目標を達成するなど順調に推移し、連結業績に貢献いたしました。WEB事業につきましては、売上高は目標を達成するも、利益は未達となりました。今後は利益目標達成に向け、原価管理を徹底させてまいります。国際事業につきましては、中間期に引き続き売上高、利益ともに目標を大きく上回るなど連結業績への貢献を果たしました。エンタテインメント事業につきましては、平成19年10月にグループ化した株式会社円谷プロダクションの貢献により、売上高が目標を大きく上回りましたが、アニメーション制作とゲーム制作を担う一部の会社の影響により、利益目標未達となりました。アニメーション制作においては原価管理並びに販売費及び一般管理費の圧縮の徹底、ゲーム制作においてはマーケティング力の強化並びに開発管理の精度向上を図ることで、利益目標達成に向けて邁進してまいります。コンテンツ・ソリューション事業につきましては堅調に推移し、連結業績に貢献いたしました。

以上の結果、当第3四半期の連結業績は、売上高21,628百万円、営業利益889百万円、経常利益604百万円、四半期純利益は347百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額257百万円が含まれております。

(注) 前連結会計年度は事業年度の末日の変更に伴う10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期決算は実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間との比較増減は記載しておりません。

事業セグメント別の概況は次の通りであります。

① 広告映像事業

広告映像事業につきましては、TV-CM制作市場規模はほぼ横ばいの中、大手制作会社への寡占化が進んでいます。そのような状況下で、大手制作会社の1社である当社グループは、業界内での更なるシェアアップを目指し積極的に事業を展開した結果、連結業績へ貢献いたしました。

TV-CM制作事業につきましては、株式会社TYOプロダクションズを中心に、株式会社エムワンプロダクション及び株式会社Camp KAZが順調な受注状況で推移し、連結業績への貢献を果たしました。

広告の企画・プロデュース事業につきましては、株式会社1st Avenueが売上高、利益ともに目標を大きく上回るなど、連結業績に貢献いたしました。

以上の結果、広告映像事業は、売上高12,088百万円、営業利益736百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額58百万円が含まれております。

② WEB事業

WEB事業につきましては、広告主が費用対効果を求め、より適切な広告媒体への見直しを図る中で、WEB広告を戦略的に活用する企業の動きが目立ってきております。そのような業界環境の下、WEB事業を担う4社については、それぞれ独自の特徴を活かし事業を展開しております。

株式会社ティー・ワイ・オーインタラクティブデザイン、株式会社コムは売上高、利益共に目標を上回るなど順調に推移するも、株式会社コラボ、テオリアコミュニケーションズ株式会社は利益目標未達となりました。目標未達の2社については、原価管理の徹底と安定した案件受注を図り、利益目標達成に向け邁進してまいります。

以上の結果、WEB事業は、売上高1,305百万円、営業利益は48百万円の赤字となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額60百万円が含まれております。

③ インターナショナル事業

インターナショナル事業につきましては、当社中間持株会社であるTYO International B.V.により、海外のグループ会社の経営管理を行っております。当第3四半期においては、中間期に引き続き売上高、利益共に目標を大きく上回るなど連結業績への貢献を果たしました。

平成19年3月にグループ化したGreat Works ABが好調に推移し、連結業績へ大きく貢献いたしました。また、平成19年6月に中国上海に設立されたShepherd Digital Marketing Consulting(Shanghai)Co.,Ltd.は、大型案件を受注するなど堅調に推移しております。連結利益への貢献にまでは至っておりませんが、今後業績に大きく貢献していくものと思われま

す。なお、アニメーション制作を手掛ける大連東方龍動画発展有限公司(中華人民共和国大連市)は、当第3四半期における当社連結業績への貢献はありませんが、中国中央電視台等への放映アニメーションや映画を制作しております。

以上の結果、インターナショナル事業は、売上高1,325百万円、営業利益104百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額42百万円が含まれております。

④ エンタテインメント事業

エンタテインメント事業につきましては、コンピュータグラフィックス(以下「CG」という。)制作を行う株式会社デジタル・フロンティア及び株式会社ルーデンスが売上高、利益共に目標を上回るなど連結業績への貢献を果たしました。

アニメーション制作を手掛ける株式会社ハルフィルムメーカーと株式会社動画工房が、利益目標未達に終わるも、株式会社ゆめ太カンパニーは売上高、利益共に目標を達成するなど堅調に推移いたしました。目標未達の2社につきましては、原価管理並びに販売費及び一般管理費の圧縮を徹底し、利益管理体制を構築してまいります。

ゲーム制作・販売を行う4社については、検収期のズレ等により利益目標を下回りました。今後は平成20年1月に新設したゲームソフト販売会社である株式会社Genterpriseによるマーケティング力の強化並びに開発管理の精度向上を図ることで、利益目標達成に向けて邁進してまいります。

キャラクター制作におきましては、株式会社ドワーフが売上高目標未達により利益目標未達となるも、平成19年10月にグループ化した株式会社田谷プロダクションが売上高、利益共に連結業績へ大きく貢献いたしました。

音楽映像の制作を行う株式会社祭は、売上高、利益共に目標を達成するなど堅調に推移しております。

放送番組制作を手掛ける株式会社博宣インターナショナルは、売上高、利益共に目標未達となりました。今後は目標達成に向け、更に積極的な営業を展開してまいります。

以上の結果、エンタテインメント事業は、売上高6,231百万円、営業利益202百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額91百万円が含まれております。

⑤ コンテンツ・ソリューション事業

コンテンツ・ソリューション事業につきましては、株式会社ライトワークが売上高、利益共に目標未達となるも、株式会社ポスト・プロダクション・センター及び株式会社CRANKが堅調に推移したことにより、全体で売上高、利益共に目標を達成いたしました。目標未達であった株式会社ライトワークにつきましては、グループ内外での営業強化による利用促進を図り、目標達成に向け邁進してまいります。今後も利益管理を徹底するとともに、業容の拡大・経営の合理化を図ることで、更に利益を確保できる体制を構築してまいります。

以上の結果、コンテンツ・ソリューション事業は、売上高679百万円、営業利益185百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額6百万円が含まれております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて10,552百万円増加し、26,664百万円となりました。現金及び預金、順調な受注状況に伴うたな卸資産の増加の他に、平成19年10月にグループ化した株式会社円谷プロダクションが保有する「ウルトラマン」シリーズ等に係る対象無形資産の評価を計上したことが主な要因になっております。

当第3四半期末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて9,726百万円増加し、23,562百万円となりました。仕入債務、短期借入金、未払法人税等及び前受金の増加の他に、上記「ウルトラマン」シリーズ等に係る対象無形資産の評価計上に対する負ののれん及び法令による繰延税金負債が主な要因になっております。

当第3四半期末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて825百万円増加し、3,101百万円となりました。四半期（当期）純利益の増加に伴う利益剰余金、少数株主持分の増加が主な要因になっております。

自己資本比率につきましては、上記「ウルトラマン」シリーズ等の対象無形資産の評価に伴い一時的に総資産が増加したため相対的に自己資本比率が下がっておりますが、株式会社円谷プロダクションの企業再生による収益貢献等により、今後財務基盤は改善いたします。

（キャッシュ・フロー）

当第3四半期における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度に比べて2,237百万円増加し、3,874百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は0百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期（当期）純利益、売上債権の減少、前受金の増加といった増加要因がある一方で、たな卸資産の増加、法人税等の支払いによる減少要因によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果獲得した資金は791百万円となりました。これは主に定期預金の払戻、保険積立金の戻入、子会社株式の売却といった増加要因がある一方で、有形・無形固定資産の取得、製作委員会への出資、M&Aによる子会社株式の取得といった減少要因によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は1,480百万円となりました。短期借入金及び長期借入金といった増加要因がある一方で、長期借入金の返済、社債の償還、配当金の支払いといった減少要因によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社は通期（連結・個別）業績予想を修正しております。詳細は平成20年6月30日付「平成20年7月期通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成19年8月に、当社からTV-CMの企画・制作事業を行うプロダクションズ事業部門を分社化し、100%子会社として、株式会社TYOプロダクションズを新規設立いたしました。

平成19年10月に、映画製作等を行う株式会社円谷プロダクションを子会社化いたしました。

平成19年12月に、ナイトウィザード製作委員会を当社連結対象（特定子会社）といたしました。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

税効果会計、法人税等の計上基準及びその他影響額が僅少なものについては、簡便な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

従来、製作委員会等への出資に係わる収益及び対応する費用は、営業外収益及び営業外費用に計上しておりましたが、各社の出資の実態を適切に反映させるために、当中間連結会計期間からそれぞれ売上高又は営業外収益及び売上原価又は営業外費用として計上する方法に変更いたしました。この結果、従来の方法に比較して、売上高は37,708千円、売上原価は78,678千円増加し、売上総利益及び営業利益が40,969千円減少しております。また、営業外収益は37,708千円、営業外費用は78,678千円減少しておりますが、経常利益及び四半期（当期）純利益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

	前年同四半期 (平成19年7月期 第3四半期末)		当四半期 (平成20年7月期 第3四半期末)		増減 金額(千円)	(参考) 平成19年7月期	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)		金額(千円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金	—		3,906,518		—	1,794,565	
2. 受取手形及び売掛金	—		4,256,288		—	4,399,968	
3. たな卸資産	—		4,297,141		—	2,539,490	
4. その他	—		1,239,339		—	652,384	
5. 貸倒引当金	—		△32,269		—	△18,703	
流動資産合計	—	—	13,667,017	51.3	—	9,367,705	58.1
II 固定資産							
1. 有形固定資産							
(1) 建物	—		1,135,168		—	814,434	
(2) 土地	—		1,174,502		—	869,199	
(3) その他	—		369,390		—	324,295	
有形固定資産合計	—	—	2,679,061	10.1	—	2,007,929	12.5
2. 無形固定資産							
(1) のれん	—		1,410,521		—	1,487,092	
(2) 著作権等無形資産	—		4,859,910		—	—	
(3) その他	—		302,334		—	314,982	
無形固定資産合計	—	—	6,572,766	24.6	—	1,802,075	11.2
3. 投資その他の資産							
(1) 保険積立金	—		644,532		—	967,692	
(2) 出資金	—		1,346,268		—	503,374	
(3) その他	—		1,944,829		—	1,632,328	
(4) 貸倒引当金	—		△189,707		—	△168,389	
投資その他の資産合計	—	—	3,745,923	14.0	—	2,935,005	18.2
固定資産合計	—	—	12,997,751	48.7	—	6,745,010	41.9
資産合計	—	—	26,664,769	100.0	—	16,112,716	100.0

	前年同四半期 (平成19年7月期 第3四半期末)		当四半期 (平成20年7月期 第3四半期末)		増減 金額(千円)	(参考) 平成19年7月期	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)		金額(千円)	構成比 (%)
(負債の部)							
I 流動負債							
1. 買掛金	—	—	—	—	—	—	—
2. 支払手形及び買掛金	—	—	3,758,606	—	—	2,864,361	—
3. 一年内償還予定社債	—	—	384,800	—	—	50,000	—
4. 短期借入金	—	—	8,857,261	—	—	5,365,612	—
5. 未払法人税等	—	—	578,926	—	—	282,127	—
6. 前受金	—	—	1,472,088	—	—	519,144	—
7. 賞与引当金	—	—	142,115	—	—	63,035	—
8. その他	—	—	1,134,466	—	—	971,229	—
流動負債合計	—	—	16,328,265	61.3	—	10,115,509	62.8
II 固定負債							
1. 社債	—	—	512,500	—	—	40,000	—
2. 長期借入金	—	—	3,519,056	—	—	3,231,509	—
3. 退職給付引当金	—	—	27,702	—	—	7,626	—
4. 役員退職給付引当金	—	—	393,042	—	—	380,933	—
5. 繰延税金負債	—	—	1,974,372	—	—	—	—
6. 負ののれん	—	—	752,301	—	—	—	—
7. その他	—	—	55,650	—	—	60,583	—
固定負債合計	—	—	7,234,624	27.1	—	3,720,653	23.1
負債合計	—	—	23,562,890	88.4	—	13,836,163	85.9

区分	注記 番号	前四半期 (平成19年7月期 第3四半期末)		当四半期 (平成20年7月期 第3四半期末)		増減 金額(千円)	(参考) 平成19年7月期		
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)		金額(千円)	構成比 (%)	
(純資産の部)									
I 株主資本									
1. 資本金		—	—	1,077,582	4.0	—	1,077,582	6.7	
2. 資本剰余金		—	—	1,023,186	3.8	—	1,023,186	6.4	
3. 利益剰余金		—	—	953,707	3.6	—	723,325	4.5	
4. 自己株式		—	—	△956,586	△3.5	—	△879,305	△5.5	
株主資本合計		—	—	2,097,890	7.9	—	1,944,789	12.1	
II 評価・換算差額等									
1. その他有価証券評価 差額金		—	—	△8,362	0.0	—	8,727	0.0	
2. 為替換算調整勘定		—	—	41,679	0.1	—	70,209	0.4	
評価・換算差額等合計		—	—	33,316	0.1	—	78,937	0.4	
III 少数株主持分									
少数株主持分		—	—	970,672	3.6	—	252,827	1.6	
純資産合計		—	—	3,101,879	11.6	—	2,276,553	14.1	
負債純資産合計		—	—	26,664,769	100.0	—	16,112,716	100.0	

(注) 前連結会計年度(平成19年7月期)は事業年度の末日を変更し10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期連結決算を実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間末との比較は記載しておりません。

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

	前年同四半期 (平成19年7月期 第3四半期)		当四半期 (平成20年7月期 第3四半期)		増減 千円	(参考) 平成19年7月期	
	千円	%	千円	%		千円	%
I 売上高	—	—	21,628,719	100.0	—	18,912,496	100.0
II 売上原価	—	—	16,399,106	75.8	—	14,499,518	76.7
売上総利益	—	—	5,229,613	24.2	—	4,412,978	23.3
III 販売費及び一般管理費	—	—	4,340,222	20.1	—	3,704,223	19.5
営業利益	—	—	889,391	4.1	—	708,754	3.8
IV 営業外収益	—	—	162,666	0.8	—	198,630	1.0
V 営業外費用	—	—	447,243	2.1	—	321,459	1.7
経常利益	—	—	604,816	2.8	—	585,926	3.1
VI 特別利益	—	—	707,453	3.3	—	496,549	2.6
VII 特別損失	—	—	61,424	0.3	—	42,425	0.2
匿名組合損益分配前税金等 調整前四半期(当期)純利益	—	—	1,250,845	5.8	—	1,040,050	5.5
匿名組合損益分配額	—	—	—	—	—	△103	0.0
税金等調整前四半期(当期) 純利益	—	—	1,250,845	5.8	—	1,040,154	5.5
税金費用	—	—	770,832	3.6	—	749,294	4.0
少数株主利益	—	—	132,868	0.6	—	80,848	0.4
四半期(当期)純利益	—	—	347,143	1.6	—	210,011	1.1

(注) 前連結会計年度(平成19年7月期)は事業年度の末日を変更し10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期連結決算を実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間との比較は記載しておりません。

(3) 四半期連結株主資本等変動計算書

前四半期連結会計期間（自平成18年10月1日 至平成19年6月30日）

前連結会計年度は事業年度の末日を変更し10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期連結決算を実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間は記載を省略しております。

当四半期連結会計期間（自平成19年8月1日 至平成20年4月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年7月31日 残高 (千円)	1,077,582	1,023,186	723,325	△879,305	1,944,789
四半期中の変動額					
剰余金の配当(千円)			△116,761		△116,761
四半期純利益(千円)			347,143		347,143
自己株式の処分(千円)					—
自己株式の取得(千円)				△77,281	△77,281
株主資本以外の項目の四半期中 の変動額(純額) (千円)					
四半期中の変動額合計 (千円)	—	—	230,382	△77,281	153,101
平成20年4月30日 残高 (千円)	1,077,582	1,023,186	953,707	△956,586	2,097,890

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合 計		
平成19年7月31日 残高 (千円)	8,727	70,209	78,937	252,827	2,276,553
四半期中の変動額					
剰余金の配当(千円)					△116,761
四半期純利益(千円)					347,143
自己株式の処分(千円)					—
自己株式の取得(千円)					△77,281
株主資本以外の項目の四半期中 の変動額(純額) (千円)	△17,089	△28,530	△45,620	717,844	672,224
四半期中の変動額合計 (千円)	△17,089	△28,530	△45,620	717,844	825,325
平成20年4月30日 残高 (千円)	△8,362	41,679	33,316	970,672	3,101,879

(参考) 前連結会計年度の連結株主資本等変動計算書 (自平成18年10月1日 至平成19年7月31日)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年9月30日 残高 (千円)	1,077,582	1,029,124	636,857	△429,011	2,314,553
四半期中の変動額					
剰余金の配当 (千円)			△123,543		△123,543
四半期純利益 (千円)			210,011		210,011
自己株式の処分 (千円)		△5,938		17,884	11,946
自己株式の取得 (千円)				△468,178	△468,178
株主資本以外の項目の四半期中 の変動額 (純額) (千円)					—
四半期中の変動額合計 (千円)	—	△5,938	86,467	△450,293	△369,764
平成19年7月31日 残高 (千円)	1,077,582	1,023,186	723,325	△879,305	1,944,789

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合 計		
平成18年9月30日 残高 (千円)	20,469	16,085	36,554	282,378	2,633,487
四半期中の変動額					
剰余金の配当 (千円)					△123,543
四半期純利益 (千円)					210,011
自己株式の処分 (千円)					11,946
自己株式の取得 (千円)					△468,178
株主資本以外の項目の四半期中 の変動額 (純額) (千円)	△11,742	54,124	42,381	△29,551	12,829
四半期中の変動額合計 (千円)	△11,742	54,124	42,381	△29,551	△356,934
平成19年7月31日 残高 (千円)	8,727	70,209	78,937	252,827	2,276,553

(注) 前連結会計年度中に事業年度の末日の変更をしているため、前連結会計年度は平成18年10月1日から平成19年7月31日までの10ヶ月決算となっております。

(4) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成19年7月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年7月期 第3四半期)	(参考) 平成19年7月期
区分	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益	—	1,250,845	1,040,154
減価償却費	—	221,240	217,253
のれん償却額	—	257,716	216,760
関係会社株式売却益	—	△631,455	△485,333
貸倒引当金の増減額	—	10,220	3,158
賞与引当金の増減額	—	75,491	△52,901
退職給付引当金の増減額	—	△183,532	△12,176
役員退職慰労引当金の増減額	—	12,108	12,249
受取利息及び受取配当金	—	△26,303	△16,163
支払利息	—	195,478	109,723
売上債権の増減額	—	711,122	△360,176
たな卸資産の増減額	—	△1,170,667	△717,374
仕入債務の増減額	—	△48,420	381,673
未払金の増減額	—	92,402	57,996
前受金の増減額	—	351,064	△88,153
その他	—	△366,890	△39,173
小計	—	750,421	267,516
利息及び配当金の受取額	—	25,827	16,163
利息の支払額	—	△190,037	△106,947
法人税等の支払額	—	△585,328	△622,431
営業活動によるキャッシュ・フロー	—	883	△445,698

	前年同四半期 (平成19年7月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年7月期 第3四半期)	(参考) 平成19年7月期
区分	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の払戻による収入	—	145,113	—
定期預金の預入による支出	—	△19,878	△3,530
有形固定資産の取得による支出	—	△178,579	△239,897
無形固定資産の取得による支出	—	△46,674	△163,611
投資有価証券の取得による支出	—	△30,090	△144,879
子会社株式の売却による収入	—	898,460	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△449,215	△800,495
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	△22,093	484,119
保証金の差入による支出	—	△113,473	△78,867
製作委員会等への組合出資	—	△135,230	△189,989
保険積立金の戻入による収入	—	480,409	16,890
保険積立金の積立による支出	—	△84,896	△109,246
その他	—	347,426	270,731
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	791,277	△958,776
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額	—	3,133,067	1,581,697
長期借入金による収入	—	430,956	1,100,000
長期借入金の返済による支出	—	△1,586,569	△471,111
社債の償還による支出	—	△242,550	△45,000
自己株式の取得による支出	—	△77,281	△468,178
配当金の支払額	—	△116,761	△123,543
少数株主への配当金の支払額	—	△91,526	△93,940
その他	—	30,930	1,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	1,480,265	1,481,912
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△34,881	48,238
V 現金及び現金同等物の増減額	—	2,237,544	125,675
VI 現金及び現金同等物期首残高	—	1,637,406	1,511,731
VII 現金及び現金同等物期末残高	—	3,874,950	1,637,406

(注) 前連結会計年度(平成19年7月期)は事業年度の末日を変更し10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期連結決算を実施していませんので、前第3四半期連結会計期間末との比較は記載していません。

(5) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

前年同四半期（自平成18年10月1日 至平成19年6月30日）

前連結会計年度は事業年度の末日を変更し10ヶ月の短縮決算となっており、第3四半期連結決算を実施しておりませんので、前第3四半期連結会計期間は記載を省略しております。

当四半期（自平成19年8月1日 至平成20年4月30日）

（単位：千円）

	広告映像事業	WEB事業	エンタテインメント事業	コンテンツ・ソリューション事業	計	消去又は全社	連結
I 売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	12,088,311	2,630,040	6,231,034	679,331	21,628,719	—	21,628,719
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	249,274	124,650	35,545	537,204	946,674	(946,674)	—
計	12,337,585	2,754,691	6,266,580	1,216,536	22,575,393	(946,674)	21,628,719
営業費用	11,600,596	2,699,131	6,063,602	1,030,568	21,393,900	(654,572)	20,739,328
営業利益又は営業損失(△)	736,988	55,559	202,977	185,967	1,181,493	(292,102)	889,391

(注) WEB事業の業績には、インターナショナル事業の業績が含まれております。

(参考) 平成19年7月期（自平成18年10月1日 至平成19年7月31日）

（単位：千円）

	広告映像事業	WEB事業	エンタテインメント事業	コンテンツ・ソリューション事業	計	消去又は全社	連結
I 売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	12,083,602	1,947,503	4,080,702	800,687	18,912,496	—	18,912,496
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,113	122,585	28,093	614,666	770,458	(770,458)	—
計	12,088,715	2,070,088	4,108,796	1,415,354	19,682,954	(770,458)	18,912,496
営業費用	11,072,311	1,938,605	4,239,397	1,203,972	18,454,287	(250,545)	18,203,741
営業利益又は営業損失(△)	1,016,403	131,483	△130,601	211,381	1,228,667	(519,912)	708,754

(注) 前連結会計年度中に事業年度の末日の変更をしているため、前連結会計年度は平成18年10月1日から平成19年7月31日までの10ヶ月決算となっております。

② 所在地別セグメント情報

当四半期連結会計期間において全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が百分の九十を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

③ 海外売上高

海外売上高は、連結売上高の百分の十未満であるため、記載を省略しております。